

▶権現様のお祭りの様子



# ふるさと見て歩き

第34回

## 魂精大権現

御前山地域の下伊勢畑大信集落では小正月の頃、市内では珍しい魂精様のお祭が行われています。

### ◆今も生きる魂精様信仰

大信集落の魂精大権現は林の中にあり、地元の人々から「権現様」の名で親しまれています。

魂精様（金精様）信仰は、男性器の形を木や石などで作り小祠にまつたり奉納したりして、その生殖力や呪力を崇拝するものです。子孫繁栄・五穀豊穰・性病治癒・夫婦和合・雨乞いなどに効験があるとされ、その原型は縄文時代の石棒信仰や境の神である道祖神、サイノカミ信仰とも結びつくものと言われています。全国に見られるもので、特に「金精様」という呼び名での信仰は東北地方が中心とされています。古くから庶民に親しまれてきた神様ですが、明治時代以降は風紀上の理由から「因習」「淫祠」とされ、各地で祭祀が禁止され、廃棄されてきました。明治初年に行われた神仏分離などの宗教改革の中で、神社以外の石仏や偶像を祭る土俗的な信仰、特に性神信仰は「野蛮な風習」として、それを禁止する太政官布告が出されるほどでした。しかし庶民の生活レベルに息づく信仰はそれを免れたり、一度廃止されても再び行われるようになったりしたのも多く、現在まで細々と続いている一部の行事

や信仰が我々に多くのことを伝えてくれているのです。

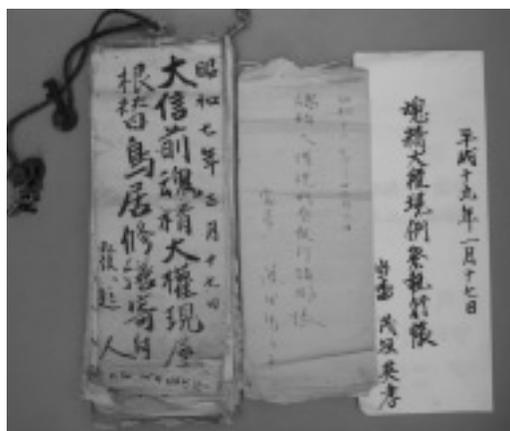
### ◆大信集落の「権現様」

大信集落の四軒が守り続けている権現様は男性の下の病に霊験あらたかといわれています。御神体は根本が土に埋まった状態で高さは八十八センチメートルほど。深さ数メートルの大きな沢を望む地に祭られています。昔は病が治ると木で作った男根を一本奉納してお礼参りをする習慣があつたようで、今でも祠内に数本の急速な医療の進歩と一般家庭への普及に伴い、この習慣も五十年ほど前から行われなくなりました。

毎年一月十七日には世話人が一年交代で宿となり、例祭を行つています。今年も厳しい寒さの中、例年どおり行われました。宿になった家では赤飯や煮しめ、菓子などを用意し、当日午前中に祭祀の幟を立てて準備をします。午後からは参拝者が訪れ、お参りのあと歓談をしました。かつては地区の人々が大勢集まり賑やかに祭りが行われたそうです。祭祀の度に作られてきた帳簿「魂精大権現例祭執行諸掛帳」には賽銭の額や供物がすべて記載され、祭礼費用として計上されています。明治時代の帳簿もあつたとのことですが、いつの頃から失われてしまいました。現在、昭和七年以降の帳簿が保

存されている一方、毎年作成され続けています。昭和二十年前後の混乱の中でも祭礼が行われ、帳簿も作成されたことがわかります。現在では例祭の日にも世話人の方が集まるだけとなつてしまいました。他の祭礼や民俗行事と同様に、担い手の高齢化、社会環境の変化などから世代交代が進み、続けていくのも難しい状況になつていくようです。

青木秀男さん、由子さんほか権現様世話人の皆さんに聞き取り調査に御協力をいただきました。



▶毎年作られる祭祀の帳簿

歴史民俗資料館

52-1450

### お詫びと訂正

「広報常陸大宮1月号」20ページのふるさと見て歩き「火伏せの神様」の中の、「小田野宿では百二十年間火災を出さなかった」は、「大火を出さなかった」の誤りでした。お詫びして訂正します。